

施策評価シート （評価対象年度：平成30年度）

1. 基本的事項

| | | | |
|------------------|---|-------|------|
| ①施策名〔施策小〕 | 3 農作物のブランド化 | ②施策番号 | 3429 |
| ③まちづくりの方向〔政策(章)〕 | 3 産業の活力が増し、賑わいと交流が生まれるまち | | |
| ④基本施策〔施策大(節)〕 | 1 大地と海からの恵みとしておいしく安全な食料を供給し続けるとともに、魅力的な農業と漁業のあるまちをめざします | | |
| ⑤基本的方向〔施策中〕 | 1 農業の振興 | | |
| ⑥担当部名 | ⑦担当課名 | | |
| 市民生活環境部 | 産業観光課 | | |

2. 施策の現状把握

[1] 施策の対象・意図

| | |
|--|---|
| ① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか) | 生産農業者、特産農作物 |
| ② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか) | 新技術の開発、優良品種の導入などを図り、農業生産者の経営安定を図るとともに優良産地を目指し、泉州地域の特産農作物のブランド化を進める。 |
| ③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか) | 農作物の自由化の進展及び価格の低迷、消費者意識の多様化・高品質志向等の変化の中で、従来製品との差別化による販路拡大等を目指し、従来とは異なるブランド化に取り組む生産側の動きが注目されるようになっている。 |

[2] 施策指標及び推移

| 施策指標(成果指標) | 単位 | 指標とした理由・考え方 |
|---|----|---|
| ① 泉南地区種子更新協議会参画による採取面積(農業振興事業) 計算式 | a | 優良種子の生産普及用採取面積により、優良品種の導入状況が一定わかるため。 |
| ② 大阪泉州エコ農産物推進協議会参画によるエコ農産物申請者数(農業振興事業) 計算式 | 人 | エコ農産物の申請を行っている農業者数により、特産農作物のブランド化の進捗状況が一定わかるため。 |
| ③ 計算式 | | |

| | 指標名 | 単位 | 実績 | | | | | 備考 | |
|---|--------------------------------------|----|-------|-------|-------|------|------|-----|--|
| | | | H28実績 | H29実績 | H30実績 | R1見込 | R2目標 | | |
| ① | 泉南地区種子更新協議会参画による採取面積(農業振興事業) | a | 目標値 | | | | 260 | 270 | |
| | | | 実績値 | 260 | 260 | 103 | — | — | |
| | | | 達成率 | | | | | | |
| ② | 大阪泉州エコ農産物推進協議会参画によるエコ農産物申請者数(農業振興事業) | 人 | 目標値 | | | | 25 | 30 | |
| | | | 実績値 | 25 | 26 | 17 | — | — | |
| | | | 達成率 | | | | | | |
| ③ | | | 目標値 | | | | | | |
| | | | 実績値 | | | | | | |
| | | | 達成率 | | | | | | |

[3] 施策を構成する事務事業

| | 事務事業名 | 成果指標 | | | | | 総事業費(千円) | | | 事務事業評価結果 | | 重点化 |
|---|--------|---------|----|-------|-------|------|----------|--------|--------|----------|-------|-----|
| | | 指標名 | 単位 | H29実績 | H30実績 | R1見込 | H29実績 | H30実績 | R1見込 | 総合評価 | 今後の方針 | |
| 1 | 農業振興事業 | 基盤整備済面積 | ha | 18.6 | 18.6 | 18.6 | 14,070 | 14,137 | 15,017 | A | ア | ◎ |
| 2 | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | | | | | | |
| 5 | | | | | | | | | | | | |
| 6 | | | | | | | | | | | | |
| 7 | | | | | | | | | | | | |
| 8 | | | | | | | | | | | | |
| 計 | 1 | | | | | | 14,070 | 14,137 | 15,017 | | | |

3. 施策の評価

| 評価の視点 | 説明・コメント等 |
|--|--|
| ①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。) | 特産農作物のブランド化を進めることは、生産農業者の経営安定、また農業の活性化につながり、上位施策である農業振興に貢献すると考えられる。 |
| ②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。) | 泉南地区種子更新協議会での優良種子の生産普及用採取面積、また大阪泉州エコ農産物推進協議会での農薬や化学肥料の使用量の検体を受けている農業者数は横ばい状態で推移しており、農作物のブランド化の進捗が現状維持の状態であることが読み取れる。 |
| ③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。) | 農業関係者、近隣市町、大阪泉州農業協同組合などの団体も参画し役割分担を行っており適切である。 |
| ④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。) | 事務事業の内容は施策に適切しており、適正である。 |
| ⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。) | 今後、農作物のブランドを確立及び販路拡大を行っていくためには、農業関係者、近隣市町、大阪泉州農業協同組合などと連携を図って進めていくことが必須と考えるため、重点化すべきである。 |

4. 一次評価(所管課評価)

| 一次評価 | 評価(A~D) | 課題等 | A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる |
|------|---------|------------------------------|---|
| | C | 農業者の高齢化による後継者不足、特産農作物の担い手不足。 | B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある |

5. 改革、改善案

| | |
|------------------------------|--|
| 即時的対応 (すぐに取り組む改善案) | 農業者や大阪泉州農業協同組合、泉州各市町などとの連携をより一層行い、大阪泉州ブランドの確立及び販路拡大を図っていくとともに、農業塾運営、省力化農業である砂栽培をPRすることにより、特産農作物生産者の後継者不足を解消していく。 |
| 短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案) | — |
| 中長期的対応 (3~5年をめぐりに取り組む改善案) | — |

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

| 二次評価 | 評価(A~D) | 課題等 | A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる |
|------|---------|--|---|
| | C | 指標である優良種子の採取面積、エコ農作物申請による事業展開については現状維持の状況である。農業者や関係機関との連携、新たな農業従事者の養成等を継続実施するなど、農作物のブランド化に向けた基盤づくりを積極的に進められたい。 | B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある |